

斎賀医院壁新聞

文献情報と医院案内 斎賀医院ホームページに戻る場合戻るボタンをおしてください

検索ボックス

<< [潜在性結核感染症](#) | [TOP](#) | [斎賀医院壁新聞（院長ブログ）の愛読者の皆さんへご注意](#) >>

2021年12月20日

<< 2024年06月 >>

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

最近の記事

(06/08)[早期慢性肺炎について](#)
(06/04)[オゼンピックは心不全の利尿薬の使用を削減する](#)
(06/03)[頸動脈の内膜中膜肥厚\(MIT\)は前糖尿病の予後因子](#)
(05/31)[スタチン（脂質異常症治療薬）誘発糖尿病](#)
(05/28)[降圧薬の転倒と骨折の危険性・介護施設](#)

最近のコメント

[鉄欠乏性貧血における鉄剤の服用](#)
by (09/13)
[23価肺炎球菌ワクチンの局所反応](#)
by (07/11)
[急性心不全のラシックスの効果減弱](#)
by (06/10)
[小児の腸重積・ロタウイルスワクチンとの関係について](#) by (05/02)
[Ⅱ型糖尿病患者にスルホニル尿素薬の有効性について](#) by (04/19)

タグクラウド

カテゴリ

[小児科](#)(259)
[循環器](#)(298)
[消化器・P・P・I](#)(178)
[感染症・衛生](#)(324)
[糖尿病](#)(150)
[喘息・呼吸器・アレルギー](#)(120)
[インフルエンザ](#)(113)
[肝臓・肝炎](#)(66)
[薬・抗生剤・サプリメント・栄養指導](#)(55)

子宮頸がんワクチン

子宮頸がんワクチン

Human Papillomavirus Vaccination and Trends
in Cervical Cancer Incidence and Mortality in the US



日本でも、来年度からヒトパピローマウイルスのワクチン（HPV）の再開が予定されています。アメリカからの報告が、JAMAに掲載されていたので、ブログします。ワクチンの有効性を、人口当たりの発生率で調べています。

- アメリカでは、2006年から11～26歳を対象にワクチンが開始されています。
子宮頸がん発生と、死亡率を人口当たり10万人で調べています。
2001年1月から2017年12月の、15歳～39歳を対象にしています。
ワクチン導入の前後での比較をするために、
ワクチン前として2001年1月から2005年12月と、
ワクチン後として、2010年1月から2017年12月を比較しています。
発がん発症には時間経過が必要のため、
主要転帰としては、2006年1月から2015年12月を除外しています。
又、感度解析として、2006年1月から2015年12月までを除外解析しています。
最終解析は、2020年11月から2021年7月までとしています。
- 結果は、15～24歳、25～29歳、30～39歳の3グループに層別化して比較しています。

Age, y	Age-adjusted rate per 100 000 population ^a	Change from 2001, 2005 to 2010-2017 ^b	Relative difference in % change ^c	P value
	2001-2005	2010-2017	Estimate (95% CI), %	Estimate (95% CI)
Incidence				
15-24	0.86	0.54	-37.70 (-42.24 to -32.75)	<.001
25-29	6.08	5.1	-16.16 (-19.45 to -12.68)	<.001
30-39	13.55	12.1	-8.83 (-9.9 to -6.12)	<.001
Mortality				
15-24	0.08	0.04	-43.75 (-59.38 to -26.5)	.002
25-29	0.57	0.59	4.36 (-10.62 to 21.18)	.58
30-39	1.95	1.86	-4.71 (-9.84 to 0.39)	.09

Abbreviation: NA, not applicable.

relative difference in percentage change for these sensitivity analyses

15～24歳のグループは、ワクチン導入後で37.7%の減少を認めていますが、25歳以上では、それ程ではありません。但し、25歳以上の中にも、ワクチンを接種した人がいると思われる。
今後は、ワクチンの効果が高い年齢層に移動するが、

脳・神経・精神・睡眠障害(66)
整形外科・痛風・高尿酸血症(42)
ワクチン(96)
癌関係(14)
脂質異常(31)
甲状腺・内分泌(22)
婦人科(15)
泌尿器・腎臓・前立腺(55)
熱中症(7)
日記(28)
その他(98)

過去ログ

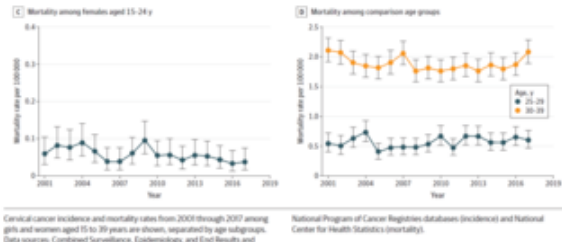
- 2024年06月(3)
- 2024年05月(14)
- 2024年04月(12)
- 2024年03月(14)
- 2024年02月(13)
- 2024年01月(19)
- 2023年12月(17)
- 2023年11月(13)
- 2023年10月(15)
- 2023年09月(12)
- 2023年08月(16)
- 2023年07月(15)
- 2023年06月(14)
- 2023年05月(15)
- 2023年04月(15)
- 2023年03月(15)
- 2023年02月(14)
- 2023年01月(15)
- 2022年12月(12)
- 2022年11月(16)
- 2022年10月(15)
- 2022年09月(13)
- 2022年08月(17)
- 2022年07月(13)
- 2022年06月(15)
- 2022年05月(15)
- 2022年04月(14)
- 2022年03月(15)
- 2022年02月(14)
- 2022年01月(16)
- 2021年12月(14)
- 2021年11月(17)
- 2021年10月(17)
- 2021年09月(13)
- 2021年08月(16)
- 2021年07月(12)
- 2021年06月(16)
- 2021年05月(16)
- 2021年04月(14)
- 2021年03月(18)
- 2021年02月(19)
- 2021年01月(16)
- 2020年12月(17)
- 2020年11月(15)
- 2020年10月(17)
- 2020年09月(19)
- 2020年08月(14)
- 2020年07月(17)
- 2020年06月(14)
- 2020年05月(21)

以降はカテゴリーで検索してください。

現時点で、若い層での子宮頸がんの発生は、少なかったようです。



明らかに、若い層では、時間の経過とともに効果を認め、ワクチン導入後、後に減少しています。



死亡率は、あまり変化はありませんでした。
最近の若者の性交渉の減少と、コンドーム使用の普及の可能性も指摘しています。

私見)
世界から日本は、後進国の誹りを受けているとの事です。
本院も体制を整備してまいります。
以前のブログも参照ください。

- [本論文.pdf](#)
- [厚労省.pdf](#)
- [報道.pdf](#)
- [以前のブログ.pdf](#)

0

0

いいね！

ポスト [ブックマーク](#)

[子宮体部癌の併用療法は第一選択では不成功..](#)
[妊娠中のインフルエンザと治療に関する勧奨..](#)
[卵巣と子宮付属器の病変](#)
[卵巣・子宮付属器の病変](#)

posted by 斎賀一 at 20:43 | [Comment\(0\)](#) | [婦人科](#)

この記事へのコメント

